

## 小児における「ツムラ五苓散」の服用方法の検討

目的

A小児科さんでは、吐き気、悪心等がみられる小児に対し、「ツムラ五苓散」の内服が処方される。しかし、窓口で服薬指導をしていると、甘味を加えて服用するよう指導したとしても、服用できない小児が多いように見受けられた。

そこで、実際にどれくらいの小児が「ツムラ五苓散」を服用できているかを把握する。そして、服用できない小児が多い場合、コンプライアンスを向上させて、小児のQOLを高めるための、薬局薬剤師として何をするべきなのか、何ができるのかを見出し、選ばれる薬局づくりを目指す。

方法

以前に、A小児科さんで「ツムラ五苓散」が処方された、小児の母親に下記のアンケートを実施した。

お薬の服用に関するアンケート	年齢	歳
①ツムラ五苓散(食間の漢方薬)を、お子様はお飲みになれましたか。		
1 ・ すんなりと飲めた。		
2 ・ 何とか飲めた。		
3 ・ なかなか飲めなかった。		
4 ・ ほとんど飲めなかった。		
5 ・ 全く飲めなかった。		
②漢方薬をA小児科さんで注腸(お尻から入れる)していただきましたか。		
1 ・ はい		
2 ・ いいえ		
③注腸後どれくらいで、吐き気や、悪心は治まりましたか。		
1 ・ その日のうちに治まった。		
2 ・ 次の日に治まった。		
3 ・ 二日後に治まった。		
4 ・ 三日後に治まった。		
5 ・ それ以上かかった。		
④漢方薬が、飲み薬ではなく、坐薬(解熱剤のようにお尻から入れるもの)の方が、良いと思いますか。		
1 ・ はい		
2 ・ いいえ		
3 ・ どちらでもいい		

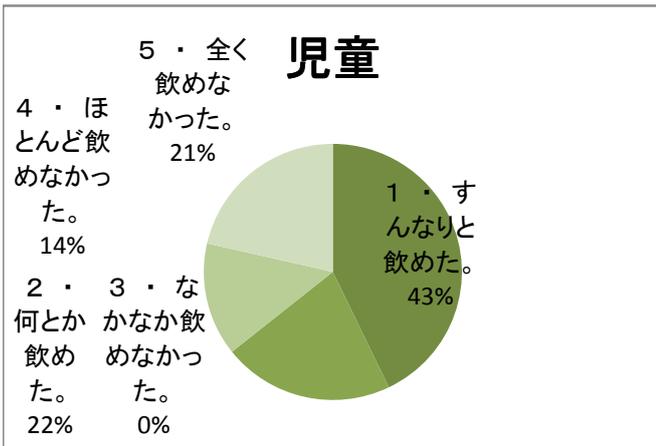
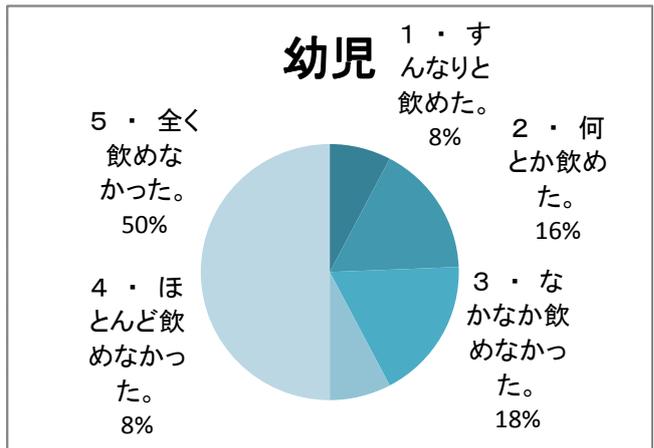
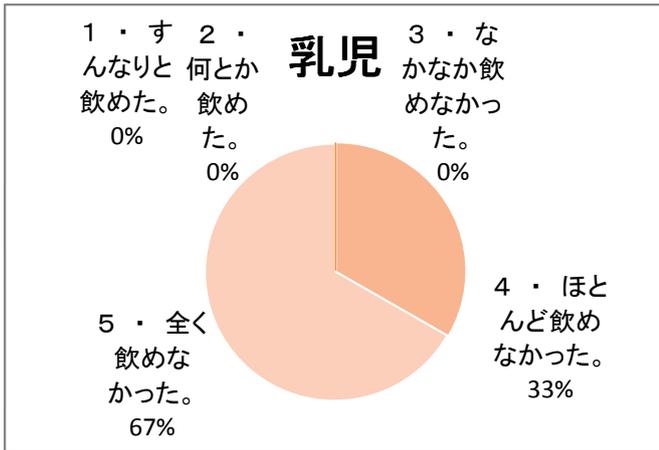
上記のアンケートを集計し、服用方法の検討をする。

結果

集計結果を、1歳未満の乳児、7歳未満の幼児、15歳未満の児童に分類した結果、下記の通りだった。

## ①ツムラ五苓散(食間の漢方薬)を、お子様はお飲みになれましたか。

	乳児	幼児	児童	全体
1 ・ すんなりと飲めた。	0	6	12	18
2 ・ 何とか飲めた。	0	13	6	19
3 ・ なかなか飲めなかった。	0	14	0	14
4 ・ ほとんど飲めなかった。	2	6	4	12
5 ・ 全く飲めなかった。	4	39	6	49



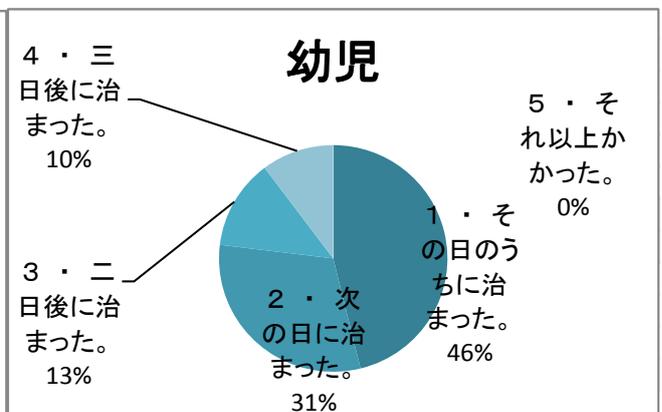
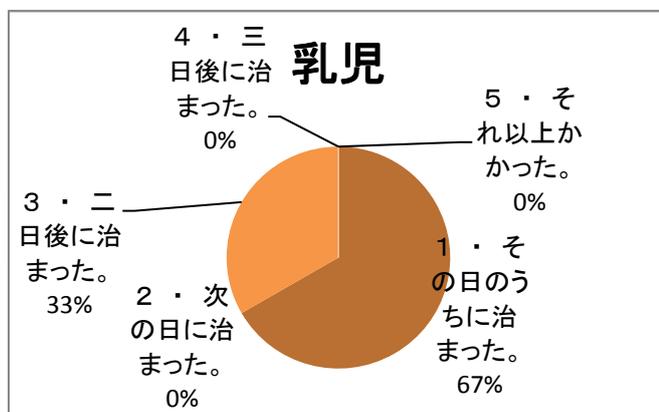
●「何とか飲めた」という小児は、「泣きながら飲んだ」「オブラートで包んだ」など、親子で四苦八苦していた。

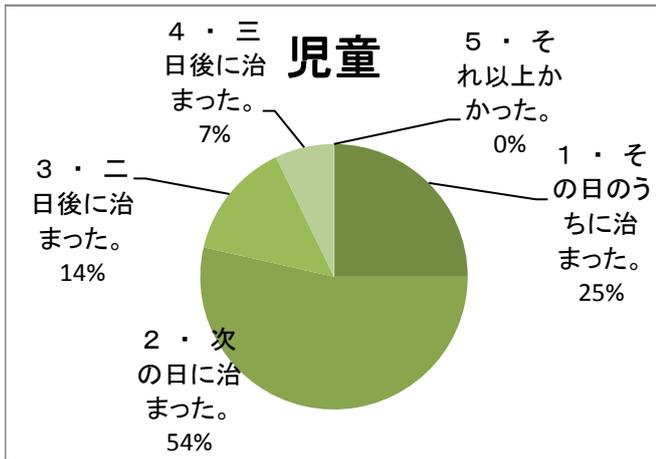
②漢方薬をA小児科さんで注腸(お尻から入れる)していただきましたか。

	乳児	幼児	児童
1・はい	6	78	28
2・いいえ	0	0	0

③注腸後どれくらいで、吐き気や、悪心は治まりましたか。

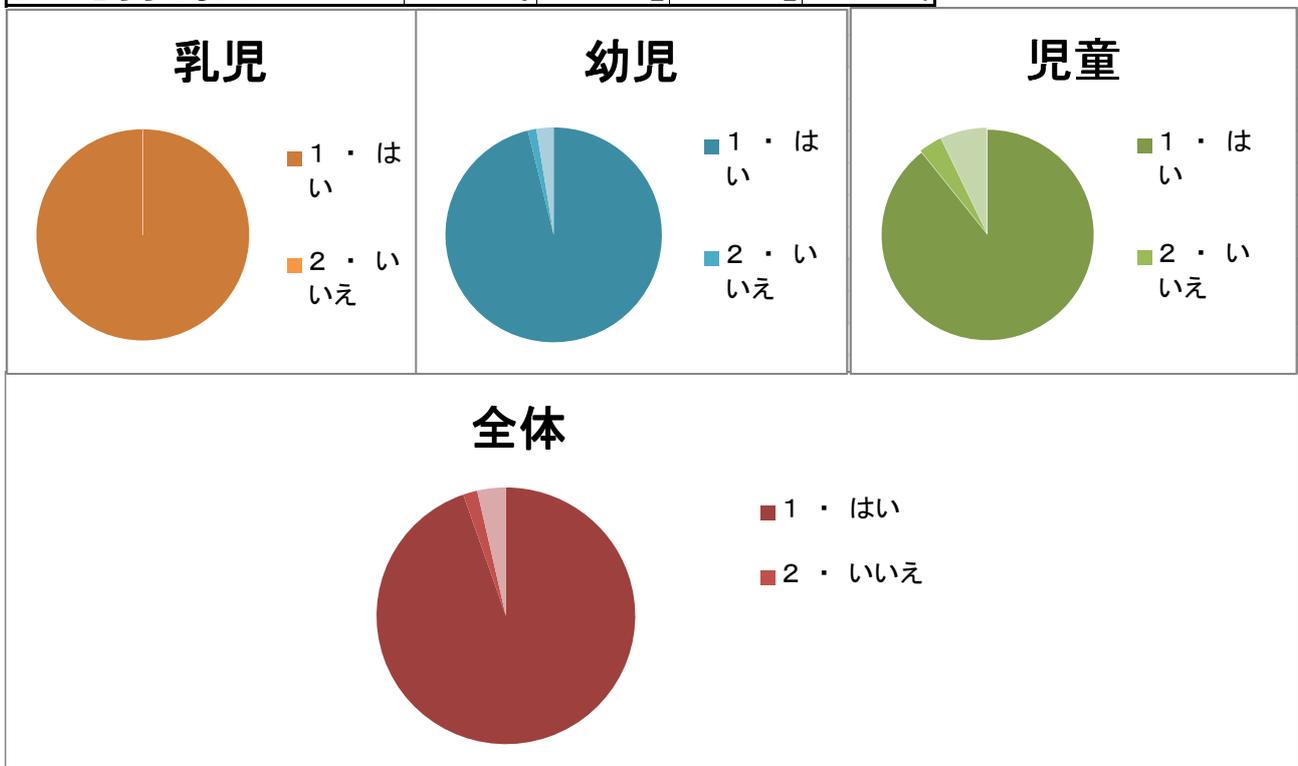
	乳児	幼児	児童	全体
1・その日のうちに治まった。	4	36	7	47
2・次の日に治まった。	0	24	15	39
3・二日後に治まった。	2	10	4	16
4・三日後に治まった。	0	8	2	10
5・それ以上かかった。	0	0	0	0





④漢方薬が、飲み薬ではなく、坐薬(解熱剤のようにお尻から入れるもの)の方が、良いと思いますか。

	乳児	幼児	児童	全体
1. はい	6	75	25	106
2. いいえ	0	1	1	2
3. どちらでもいい	0	2	2	4



### 考察

予想通り、乳児や幼児ではほとんどの患者が服用できていなかった。これでは、医療費の無駄遣いである。やはり、薬剤師として何らかの方法を用いて、コンプライアンスを向上させる必要があると思われる。

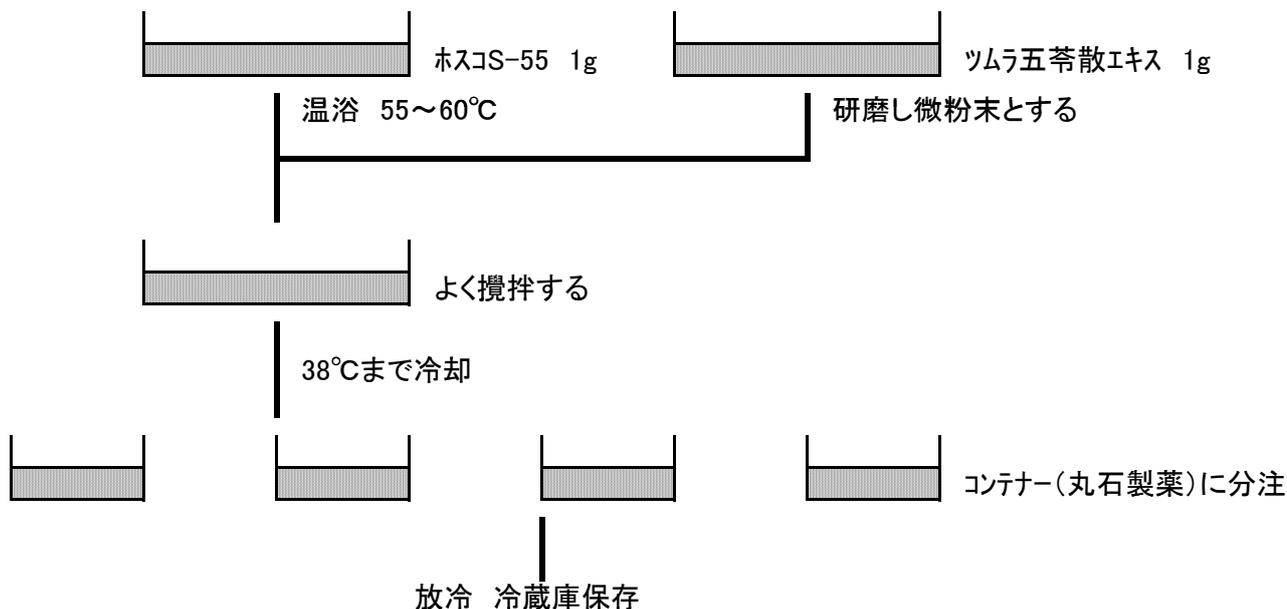
そこで、五苓散を坐薬に加工する方法を採用している「よしだこどもクリニック」の吉田政己氏の文献を参考にしながら検討してみた。

五苓散坐薬1.0gを子供に使用した場合、補中益気湯による二重盲検法で検討した結果、「有効:75%」、「やや有効:12.5%」という、良い成績が得られている。また、別の先生が同じような検討をした際も、「有効」「やや有効」を合わせると、90%以上という結果を出している。

これらのことを考慮すると、五苓散坐薬はかなり有効であることがわかる。院内で行われているこれらの処置を、自宅に帰ってからもできれば、患者の苦い薬を飲まなければならない、という苦痛や、親の具合の悪い子供に嫌がる漢方薬を飲ませないといけない、という苦痛から解放できるのではないだろうか。

## 五苓散坐薬の作り方

基材として「ホスコS-55」という油脂性基材（ハードファット）を使用する。  
これは、丸石製薬から出ている薬価が10g41.99円のウイテプゾールを主成分とする基材である。



尚、五苓散の量であるが、五苓散0.5g、1.0g、2.0g入り坐薬を比較検討をした結果、0.5gでは効果が弱く、1.0gと2.0gでは効果が同等であったため、1.0gを採用したと文献にはあった。

また、使用期限については、保存剤無添加であることと、加工工程で滅菌ができていないため、おそらく冷蔵庫保存で3カ月ぐらいではないかと思われる。

使用方法としては、まず五苓散坐薬1個を入れて様子を見て、30分経って吐くようだったら、3時間後にもう1個使用する。ほとんどが2回で治まるが、それでダメなら次の日に点滴に病院に行ってもらう、という具合だ。

レセプト請求については、院内では五苓散坐薬の保険適用がないため、五苓散のみを請求する、となっているが、調剤薬局では、金町店が行っている「アクロマイシンVカプセル」と「親水軟膏」の混合軟膏と同じく、自家製剤加算の算定が可能と思われ、調剤料に90点(900円)が加算される。したがって、手間ではあるが、薬局経営的にもメリットがあると思われる。

## 今後の課題

患者アンケートの結果をA小児科の先生に報告し、坐薬の指示を検討していただく。  
指示がもらえる方向ならば、早速材料を揃え、坐薬作りを試みる。うまく坐薬が作ることができ、安定供給が可能と判断したら、処方していただくことにより、患者のQOL向上を目指すと同時に、独自性のある薬局として、選られる薬局にしていきたい。